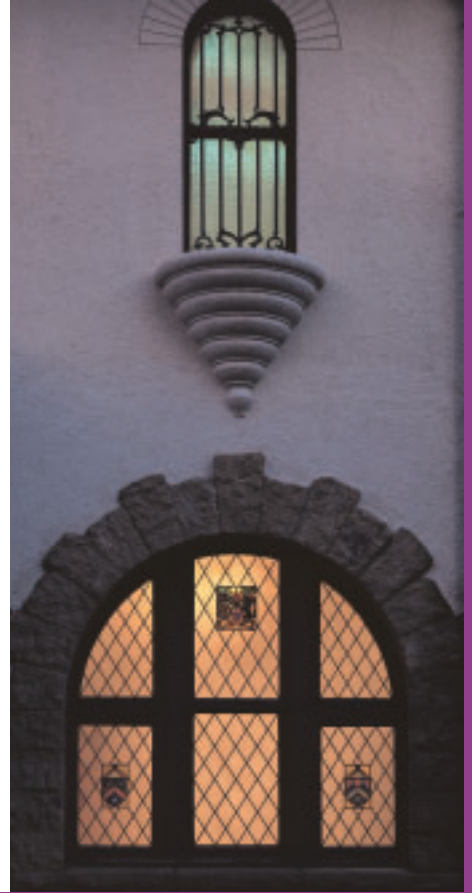


5

DECORATION

意匠・内装



空間の装飾を目的とする「デザインガラス」はビザンチン様式の建築から始まり、ゴシック・ルネサンスに至る建築様式で壮大なステンドグラスに昇華しました。

一方、壁面材としての「鏡」はルネサンス時代のベネツィアに発祥し、ベルサイユ宮殿の鏡の間の完成で世界に拡がりました。

その後のアールヌーボー様式では、エッチングやパート・ド・ヴェールなどさまざまな技法で、ガラスを素材とする空間装飾が行われましたが、産業革命以降の近代建築では、ガラスは装飾よりも効率的な製造法と機能への努力が傾注されます。

しかしガラスによる空間装飾の底流は変わらず、F.L.ライトのように、優れた建築家であり、優れたステンドグラスデザイナーも輩出しました。

現在、板ガラスの優れた機能や耐久性を基に、安定した量産の装飾技術を加えたデザインガラスは、インテリアの装飾を中心に再び注目されています。